【演目解説】

〈第一部〉伝統と創造

一、長唄　操り三番叟

五穀豊穣を祈る祝言の舞を、操り人形に踊らせるという趣向の歌舞伎舞踊曲。今回は、東京・亀戸の今藤珠美三味線教室で研鑽を積んでいる門弟一同による演奏でお聞きいただきます。

二、創作邦楽・舞踊　愛の南十字星

山鹿出身の放送作家・木村祐章作のラジオドラマ『ぬれわらじ』をもとに、今藤珠美が構成・作曲。平成十八年に八千代座で初演され、国立劇場や浅草公会堂等で再演を重ねてきました。今回は高濱流光華々による創作舞踊として上演。二胡に酒井和嘉子、ナレーションに香山真理子を迎え、過酷な運命を生き抜いた女性の感動のドラマをお届けします。

〈第二部〉継承と発展

一、箏合奏　飛躍

昭和初～中期の作曲家・久本玄智により昭和六年に作曲された箏二重奏曲。洋楽に影響を受けた明るく爽やかなハーモニーが聴きどころ。下田れい子主宰『熊本箏の音の会』、小路永こずえ主宰『山鹿こどもおこと教室』で箏を学ぶ子どもたちが、日頃の稽古の成果を披露します。

二、組曲　風流

作曲・今藤珠美、作調・藤舎千穂。春・夏・秋・冬の四楽章からなる合奏曲。春はそよ風に舞う蝶々、夏は蛍と夕立、秋はお祭り、冬はじょんから三味線と降りしきる雪をモチーフに、四季折々の風情を描きます。日韓の三味線教室の共演でお送りします。

三、長唄　勧進帳

歌舞伎十八番の一つ。兄・源頼朝の不興を買った源義経は、家来の弁慶らと共に山伏の姿に身をやつし奥州へ落ちのびます。その途中、安宅の関所に、富樫左衛門が義経を捕えようと待ち構えていました。弁慶と富樫の丁々発止のやりとりと義経主従の絆を描いた長唄屈指の名曲をお楽しみください。

四、フィナーレ　くまもと音頭

作詞・小川芳宏、作曲・今藤珠美。平成七年、民謡歌手田中祥子（キングレコード所属）の歌でCBSソニー（現：ソニー・ミュージックエンタテインメント）からリリース。その後、県内各地はもちろん、肥後細川家ゆかりの地である東京都文京区めじろ台の盆踊りでも踊られています。今回は田中祥子の歌と高濱流光華々の振付、藤間絲恵社中の踊りで華やかに盛り上げます。

終演予定　午後四時半頃

私と山鹿

今藤　珠美

私と山鹿とのご縁が生まれましたのは、地元で長きにわたり山鹿の文化発展に携わり、八千代座復興に尽力された木村理郎さんとひょんなことから知り合ったのがきっかけです。

私がまだ十九歳の三味線を学んでいる若者だった頃、熊本県から「肥後琵琶保存後継者」の一人に選ばれ、肥後琵琶奏者・山鹿良之（やましかよしゆき）さんの南関町にあるご自宅に伺いました。そのとき山鹿さんの横で色々とお世話をしておられたのが木村さんでした。

そのご縁で山鹿や熊本に友人ができ、いつの間にか一つのグループになり、今日まで続く縁となりました。

長年の友情に感謝しながら心を込めて演奏いたします。

